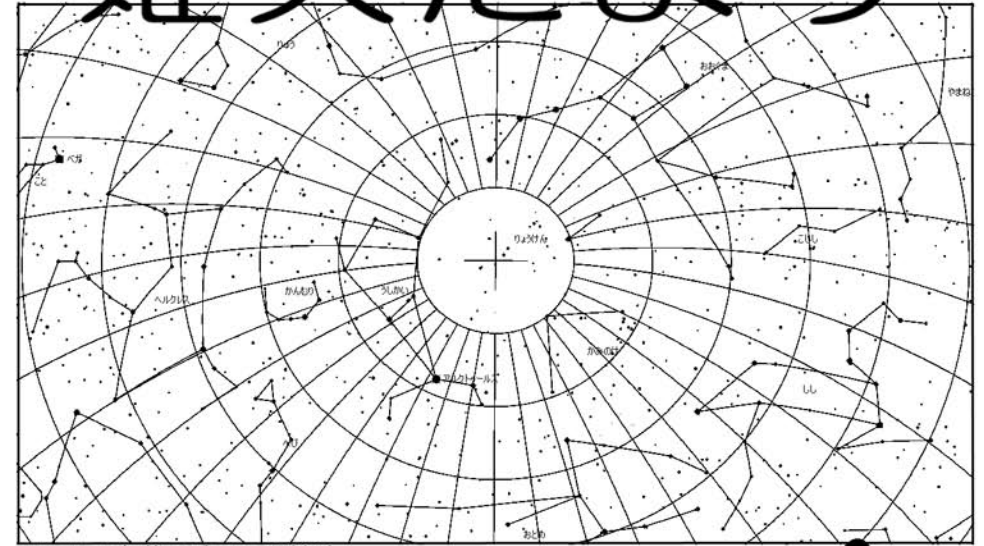


姫天だより



6月15日午後8時の天頂付近

6月号
2022

うしかい座には白鳥座のアルビレオと並び有名な2重星があります。アルビレオは宇宙の宝宝箱といわれますが、うしかい座のε星はブルケリマ(もっとも美しいもの)と名づけられました。19世紀のロシアの天文学者(北半球の2重星研究者)シュトルーヴェが天体望遠鏡で見たこの星のオレンジと青の色の対照がみごとにことから名づけたことは有名です。

★今月のテーマ 春の星座を観る会

さて、今月からスタート時間を30分おそくして夜8時から観望会を始めます。日が長くなり星が見える時間が遅くなってきたからです。

春の星座は皆さんもよく知っている北斗七星から探すことができます。ひしゃくの柄の部分に当たる4つの星をその並びに従ってカーブを延長していくと、今月の星座で取り上げられている“うしかい座”のオレンジ色の1等星アルクトゥルスが、さらに伸ばしていくと“おとめ座”の青白い1等星スピカが見つかります。その先には“からす座”を見つけることができます。皆さんも一緒に探してみましよう。

★今月の星座 うしかい座

6月の下旬午後8時ごろに、ほぼ頭の真上を見上げると、オレンジ色の明るい星から、ネクタイの形に星が並んでいるのが見つかります。これが2匹の猟犬を連れておおぐまを追い立てるうしかい座です。うしかいのモデルについては、はっきりしたことは分かりませんが、自分の母親とは知らずおおぐまを追い立てる、猟師アルカスであるとした説もあります。

星座の歴史は古くプトレマイオスの48星座のひとつですが、起元前9世紀ごろのギリシアの詩人ホメロスの書いた叙事詩「オデッセイア」の中に“沈むに遅きボーテス”(ボーテスとはうしかい座のこと)と歌われていることからかなり古くから牛飼星座が描かれていたことがわかります。また、沈むに遅きには、春にうしかい座が東の地平線から昇ってくる時は寝そべった形で短時間で姿を表すのに、秋に西の地平線に沈む時には、立った姿でゆっくりと沈んでいくようですが印象的だと語っています。

オレンジの明るい星はアルクトゥルス熊の番人という意味があり、-0.1等星でとても目立っています。(普通1等星と呼ばれる明るい星の2.5倍明るく光っています)日本ではちょうど麦の刈入れのころにこの星が頭の上に輝くので“麦星”の呼び名があります。アルクトゥルスは、北斗七星の柄杓の柄を使って南へ延ばす春の星座を見つける春の大曲線によって簡単に見つけることができます。男性的にオレンジに明るく輝くこの星と、さらに春の大曲線を南へ延ばしその先に輝くおとめ座の1等星スピカは女性的で清楚に青白く輝いていることから、この2つの星をカップルにみたと、春の夫婦星と呼ぶこともあります。

-次回の天文クラブ-

●6月の星を見る会

6月25日(土)午後8時より
春の星座観察

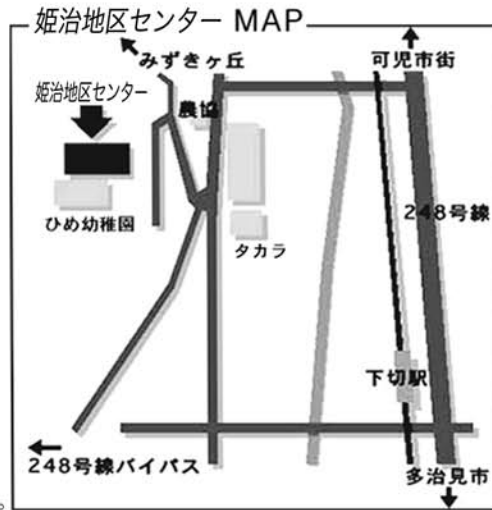
●7月の星を見る会

7月30日(土)午後8時より
旧暦七夕のお話
夏の星空教室

※観望時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2022年6月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで